

地域からの発信を支援する国際教育教材交流ネットワーク

大日本図書株式会社C & Vセンター 原 久太郎
和歌山県新宮市立三輪崎小学校 嶋田 雅昭

プロジェクトのねらい

インターネットを利用するためのハード環境が整備され、デジタルコンテンツが充実してきた。これから求められるのは、

- ・教師が自ら教材をつくることのできる環境
- ・子どもたちの表現を支援する仕組み
- ・海外に発信することを日常的に行うことのできる仕組み

そして、

- ・これらの環境と仕組みを継続して提供する場の確保

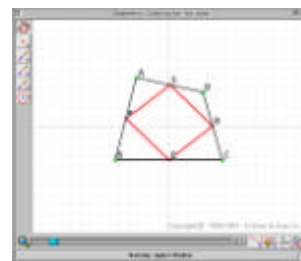
教師が自ら教材をつくることのできる環境

MS-DOSやWindows環境においても、教師による教材作成は行われてきたが、それは概してコンピュータシステムに関して知識を持っている教師が行ってきたといえる。

インターネット時代を迎えて、OSが進化し、ソフトウェアも進化して、画像の提示や映像の編集も極めて簡単に行うことが可能となり、だれもがコンピュータでプレゼンテーションができるようになった。

しかし、理科や数学においては、未だに誰もが簡単に教材をつくる環境とはいえない。さらに、できあがった教材をお互いに評価し合う場も少ない。

本プロジェクトにおいては、数学教材をつくるツール、理科教材をつくるツールの提供とそれらを公開して評価する場を提供する。



子どもたちの表現を支援する仕組み

「総合的な学習の時間」や「生活科」などで、調べ学習の結果をまとめ、それがインターネットのホームページデータとして簡単に公開できる仕組みが求められている。

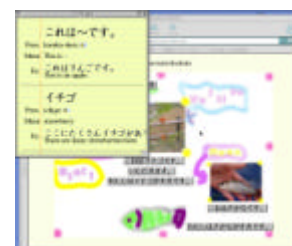
「文章をつくり、タイトル文字をかき、絵をかき、その結果がHTMLデータとして保存でき、元のデータは常に更新できる」この要請に応えられる児童用ツールを作成する。



海外に発信することを日常的に行えるしくみ

子どもたちがつくったホームページデータが、日本語環境がないコンピュータでも日本語がそのまま表示されれば、少なくとも日本の子どもたちが何を表現しているのかを海外から知ることができる。そこに、ポイントごとに英語に翻訳される仕組みが指導教師の手をわずらわせることなく行うことができれば、海外への発信が広まると考えられる。

上記の「子どもたちの表現を支援するしくみ」でできあがったデータには日本語フォントを埋め込み海外の日本語環境がないコンピュータからでも日本語が表示されるようにする。さらに英語に翻訳したい「ことば」を選択すれば、その言葉はポップアップウィンドウ上で英語に翻訳され、さらに日本語が音声で表現されるしくみを付加する。



これらの環境と仕組みを継続して提供する場の確保

数学教材作成ツール、理科教材作成ツール、子どもたちの表現を支援する児童用ツールの開発は継続して行い大日本図書のサーバを通して供給し、現場からの改良要請に応じていく。さらに海外交流のための「ことば」の翻訳の仕組みも、子どもたちが必要とする単語（辞書）の収集と蓄積を行い、交流支援の体制をつくる。

E スクエア・プロジェクト成果発表会

和歌山県新宮市立三輪崎小学校 総合的な学習の時間「郷土を愛する心の育成」

[指導計画]

三輪崎小学校5年生では、「郷土を愛する心の育成」というテーマで、郷土の伝統芸能・鯨踊りの1つである「あやおどり」に、年間を通して取り組んでいる。主な体験的学習活動の流れは次の通りである。

	< 体験的学習活動 >	< 観点 >
5月	「あやおどり」って何？	調べる
6月	三輪崎小学校伝統芸能保存会から学ぶ	ふれる（歴史・人）
7月	学校の先輩（6年生）、地域の先輩	教わる・練習する
9月	保存会と共演、運動会	体験する・つかむ
10月	他の祭りや踊りを調べよう	調べる・広げる
11月	ホームページで綾踊りを紹介しよう	まとめる・表現する
12月	郷土芸能で他の小学校と交流しよう	交流する。深める
1月	お年寄りに綾踊りを見てもらおう	体験する。生かす
2月	自分達の手で、自分達の祭りをつくろう	向かう（郷土愛）

他の地域の小学校とテーマを持って交流することにより、自分達の郷土をより深く見つめ直すことができる。そのためには、子どもたちが調べ、体験し、感じたことをホームページにまとめるという形で表現することは有効な方法の一つであると考えられる。「郷土を愛する心の育成」という目標を達成するために、コンピュータ等の情報機器を有効な「道具」の一つとして活用していく。調べる 表現する 交流するという活動に、体験することを通して取り組むことにより、児童の心の中に郷土や人間を大切にしたい気持ちを育てていきたいと考えている。

[iFriend の活用]

総合的な学習の時間「ホームページ作り」 あやおどりを紹介しよう ということで、児童用ホームページ作成ソフト「iFriend」を使って、実際にホームページを作成した。児童の間には、能力・経験・意欲などの個人差があるが、情報モラルさえ守られていれば、それぞれの実態に応じた取り組み方ができればよいと考えている。学校のホームページに掲載できそうな作品は全員に紹介し、その場ですぐにホームページを更新した。



[実践を行って]

まず年間を通した総合的な学習の取り組みがあり、それらを進める中で発信したい情報が生まれる。ねらいに近いづくために他校と交流する場合、発信したい情報をたとえばホームページ上で公開していく必要が出てくる。そんな時必要になるのが、子ども達が簡単に使え、かつ機能のしっかりとしたHP作成ツールである。

今回 iFriend を使用してみて感じたことは、「子ども達がなじみやすいソフトである。」ということである。インターフェイスが分かりやすく、パソコンをあまり使ったことのない子ども達でもおおよその機能を使うことができた。最初に名前を登録しておけば、自分のファイルを簡単に呼び出し・編集・保存することができるので、本来の情報発信に時間をかけることができた。子ども達は自分のファイル、自分のソフトという感覚で iFriend を使用していたような気がする。

今回は iFriend を主に HP 作成ツールとして活用したが、翻訳機能を使った国際交流ツールとしての活用も視野に入れている。アメリカの姉妹都市との交流の計画があるので、これからも iFriend を活用していきたいと考えている。実践担当者としては、「必要なときに必要なソフトに巡り会えた。」という感じである。

和歌山県熊野川町立熊野川小学校 国語の時間「詩をつくる」

熊野川小学校山中昭岳先生のクラスでは国語の時間に iFriend を使って詩をつくらせた。

